

# 2012（平成24年）開講の 古典講読『枕草子』

受講者数：66人

講義回数：6回

教室：みずほ台コミュニティセンター

期間：平成24年／9月8日／15日／29日／10月6日／13日／20日  
午前9時～12時

講師：埼玉大学名誉教授 木越 隆 氏

シラバス：

1	枕草子の成立と 自然の描写（1）	枕草子はどのようにして書かれたか、また「春は曙」から始まるわけを考えます。
2	自然の描写（2）	枕草子には、自然がどのように描かれているかを見てまいります。
3	雅びの世界（1）	内裏の雅びやかな世界をどのように描いているかを見てまいります。
4	雅びの世界（2）	宮中行事を通して、雅びの世界をどのように描いているかを見てまいります。
5	清少納言の理知（1）	枕草子には、筆者と男性貴族との交際が興味深く描かれています。
6	清少納言の理知（2）	枕草子には、筆者と男性貴族との交際が興味深く描かれています。

## 受講感想文

自由で華やかな雰囲気、清少納言の性格にはピッタリ

M. M.

枕草子は、清少納言記とも言われるそうです。清少納言は、余り歌を残していません

が、それでも、平安後期以後の中古三十六歌仙の一人だとの事、少し意外でした。当時は今と違って、紙はたいへん貴重品でした。その紙を中宮から賜って、自由に書かせて頂いたので、中宮がいかに彼女を信頼し、慈しんでいらしたか判ります。

ところで、枕草子が“春は曙…”から始まる訳と言うのが勅撰和歌集では、自然を詠んだ四季の歌が一番格が高いとされている故である…ということを知りました。

現代と違って当時は、四季の移り変わりを始めとする、自然現象が何よりの刺激となり、情趣の対象となっていたのだと思います。それにしても、彼女は感受性も観察力も、色彩感覚も、とりわけ優れていて、他の人々が見過ごす事物、自然現象、さらにあらゆる色彩の微妙な美しさに目を止め、深く感動して、書き止めています。また、彼女の観察眼はなかなか鋭く、辛辣だったようで、日常生活を書き止めた文からも推察されます。

彼女の仕えた中宮定子は、両親の気質を受け継いで、才気煥発、明るく高潔で、単なる深窓の姫君ではありませんでした。自然に中宮の後宮（殿舎）も明るく、自由で華やかな雰囲気、清少納言の性格にはピッタリだったようです。



中宮が特に漢学に造詣が深かったという。文学上の共通点から、二人の間には信頼と情愛が、更に深まったのでした。また、中宮の後宮には、多くの貴族が出入りして、機知に富んだ会話や、洗練された言葉、詩歌のやりとりを伴う“雅”の世界が繰り広げられていますから、彼女はさぞ生き生きしていたことでしょう。

## 文学講座・古典(枕草子)講読を受講して

T. F.

今期も、木越先生の機知に富んだ講読に導かれ、楽しく受講をさせて頂きました。

木越先生のご講義を聞き漏らすまいと耳を傾けていると、時折、恒例とも言いたくなる、先生のジョークに、教室内は笑い声が生じ和やかな雰囲気が漂います。

木越先生を、お招き下さったご担当役員の皆様方に感謝を申し上げます。

印象深い文章・言葉が、第2回目(10/15)の「自然描写」

- 1) 調和の美[三七]＝清少納言の美の根拠
- 2) 花に合う風景[四][八三]
- 3) 秋の風景[六七][一三〇]
- 4) 郊外の風景[二二三][二二六]

の章段の随所に情感を覚え魅かれました。

魅かれる理由は、自然界の趣と景色を、中でも、“木の花”“草の花”“四季折々の花々”の、姿を細やかに観察し、感じるままを書き綴った文章・言葉です。それは、私が携わっている生け花の流派(安達流)の教示に、幾多の類似点を見出せたからだと思います。

例えば

- 1) 調和の美＝清少納言の美の根拠

[三七] “木の花は……櫻は、花びらおほきに、葉の色こきが、枝ほそくて咲きたる。”

……云々。いとめでたし。

安達流でも、作風によっては、アンダーライン    印のように、花の付き方に趣がある細い枝(走り枝)を好みます。流れるような走り枝が醸し出す風情を生かしつつ、生けた作品には風雅さが生まれます。

## 2)花に合う風景

[四] “三月三日は、うらうらとのどかに照りたる。桃の花のいまさきはじむる。”の、三月三日は「上巳の節句」で、「女の子のお節句」・「桃の節句」とも言われています。木越先生が解説の折に引用された歌

“春の苑くれなみにほう桃の花 下照る道に出で立つ乙女”（万葉集・大伴家持）を、安達流でも引用し、女の子に似合う桃の花咲く光景をイメージして、女の子の成長を願い、桃の花を主花材に作品を生けます。

## 3)秋の風景

[六七] “草の花は、なでしこ、唐のはさらなり、大和のもいとめでたし。をみなえし。桔梗。あさがほ。かるかや。菊。”

の、花々は、花野をイメージした作品を生ける時の主花材です。

また ”薄を入れぬ、いみじうあやしと人いうめり。秋の野のおしなべたるをかしきは薄こそあれ……云々”

は、安達流でも思いは同じで、花野をイメージした作品には「薄」が必要で大切な役目を担います。

平安時代の文学と今の時代の生け花と分野・時代は異なっても、自然が織り成す美を捉えて描写する術は、長い時を経ても相違はないのだなぁと……。

皇后定子は雪景色を心ゆくまでながめたことであろう

Y. S.

古典は1人で原文を読んで勉強するのは大変である。

市民大学で『源氏物語』『万葉集』を学び、そして今期は『枕草子』、木越先生のすばらしいご講義を受けられる幸せを思い、毎回出席した。

私は今まで『源氏物語』は大好きであったが、『枕草子』はそれほどでもなかったのであるが、木越先生のご講義で、『枕草子』の魅力に引き込まれていった。『枕草子』は勿論清少納言の心意気にてである。

彼女は皇后定子が25歳で急逝のあと、中宮彰子の父道長が権勢をふるっている世に女房としての居場所はないであろう。彰子に仕える気にはなるまい。彼女にできることはお仕えした皇后定子が如何に美しく、聡明で、お優しかったかそれを内裏の雅やかな世界を中心に書き、そしてご実家の栄華の日々を書くことであった。兄の内大臣伊周、弟の中納言隆家、妹の淑景舎女御原子のありさまが生き生きと描かれていて面白い。

彼女は自分では和歌は上手くないと思っていた。だから散文で漢文を取り入れて書くのである。

彼女の曾祖父清原深養父は古今集時代の有名歌人、彼の歌は百人一首にもある。私の中学、高校時代の十八番であった。「夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ」である。この清新さがたまらない。

父元輔の歌も百人一首にある。「契りきな…」の歌である。名歌を詠む家の血を引いている清少納言、でも当時は和泉式部が和歌の第1人者であった。清少納言は歌でないもので自分を輝かせたいと願ったに違いない。

木越先生は第1回目のご講義で「春は曙」から始まるわけを教えてくださいました。それは勅撰和歌集の1番最初に出てくるのは四季の歌であり、自然を詠む歌であること、格の高い順に並べられてあり、つまり他の賀、哀傷、恋より上に位置する。それを散文で書いたのが『枕草子』と話され、私は納得した。知識を得られるのは何と楽しいことであろう。和歌の1番格の高いものから散文で書いていこう考えた清少納言の思い。全く才女の名にふさわしい。賢女の紫式部と並び称されるのは当然だ。

『枕草子』は皇后定子のサロンのありさまをくわしく伝えている。これが道長の手に渡ったら彰子に役立てようとしたであろう。紫式部も目を通したと思われる。

「他人とは際立って見せようとむきになっている人は軽薄な人がらにもなる」などときびしいことを『紫式部日記』のなかで述べているそうだが、私には少々嫉妬もあったのではないかと思われる。

清少納言が才女ぶりを発揮したエピソードの中ではやはり「香爐峰の雪」の話が、私は1番素敵と思う。

白楽天の「遺愛寺ノ鐘ハ枕ヲ敬テテ聴キ 香炉峰ノ雪ハ簾ヲ撥ゲテ看ル」を皇后定子も清少納言も熟知しているから、この問いにただちに答えられる。清少納言はすぐさま御格子をあげさせて、御簾を高くあげたとのこと、皇后定子は雪景色を心ゆくまでながめることができたであろう。流石清少納言と微笑されたのだ。そしておそばの女房たちも定子様と清少納言に感嘆したことだろう。

皇后定子は25歳の若さで亡くなられた。誠に惜しいお方であったが、でも最高に美しい時にあの世に旅立たれた。

清少納言のように打てば響くすばらしい女房がおそばに仕えていて楽しい時間を過ごすことができたら良かったと私は思った。

木越隆先生、すばらしいご講義をありがとうございました。

スタッフの皆様 お世話になりました。厚く御礼申し上げます。



2

2012年10月20日

## 文学散歩 — 鎌倉文学館、大仏・長谷寺をたずねる

実施日：平成24年10月28日（日）

集合場所：みずほ台駅 2階ロビー

集合時間：午前8時15分 小雨実施（状況により旅程は変更します）

緊急連絡：\*\*\*\*（担当：\*\*）

旅費：①交通費：2860円 みずほ台～由比ヶ浜（往復）

②入館入山料等：文学館の特別展 280（団体料金）

／300円／200円

持参 ③お茶・弁当

④パスモまたはスイカ（残額が3,000円以上あることを確認）

### （旅程）

みずほ台発～池袋 8:29～8:57（志木駅で急行に乗換え）

池袋～鎌倉 9:06～10:14（JR湘南ライン・逗子行き）

鎌倉～由比ヶ浜駅 10:24～10:27（江ノ島電鉄・藤沢行き）

由比ヶ浜駅（江ノ島電鉄）

↓ 徒歩7分

鎌倉文学館【滞在時間150分】 昼食 13:00 出発

↓ 徒歩10分

高德院（大仏）【滞在時間：約30分】 13:50 出発

↓ 徒歩12分

長谷寺【滞在時間60分】 15:00 出発

↓ 徒歩5分／おみやげは迅速に

長谷駅（江ノ島電鉄）

15:41～15:46

↓ 江ノ電で5分

鎌倉駅 16:07 出発

↓ JR湘南新宿ライン快速（宇都宮行き）

池袋（ホームで解散） 17:14 到着

